

第七回四国あるき遍路の旅



平成 16 年 11 月 27 日～29 日

菩提の道場（愛媛県）

四十一番龍光寺から

五十番繁多寺まで

参加 15 名（木原富志美、石川信子、菅野光夫、福田和夫、福田きく江、上條淑子、齋藤加代子、稲田陽英、清水高次郎、秋元勇、小貫晃、石井昭夫、広渡みつ子、宮田宗格、宮田耕）

歩いた距離

第 1 日目
(11 月 27 日)

バス停「浄瑠璃寺前」

0.12km

四十六番 浄瑠璃寺

1.00km

四十七番 八坂寺

4.62km

四十八番 西林寺

3.20km

四十九番 浄土寺

1.75km

五十番 繁多寺

0.78km

バス停「畑寺」

計 11.47km

第七回の四国あるき遍路は、菩提の道場伊予の国（愛媛県）です。

前回、前々回と、修行の道場にふさわしく雨に恵まれての歩きだったのが、悟りの国愛媛は3日間とも好天に恵まれて歩くことができました。

札所は、宇和島周辺・久万周辺・松山周辺と離れており、電車・バスでの移動と、山越え遍路道の組み合わせとなりました。景色も、車窓からながら海が見えたり、紅葉の山寺があったり、咲き残りの朝顔や山道ではリンドウが可憐な姿を見せてくれたりと変化に富んだものでした。

それにしても、何回も台風が襲った四国山中の遍路道は荒れており、歩くのが大変だったと思いますが、無事歩き終えることができました。お疲れ様でした。



■四十六番浄瑠璃寺

浄瑠璃寺に行くバスはあらかじめ調べてありましたが、伊予鉄松山市駅に着いて、念のために確認すると、日に何本かあるから大丈夫ですよと教えてくれました。3番乗り場に行って時刻表を見ると、私たちが乗車予定の11時10分の次は、14時40分ぐらいまで便がありません。確かに次の便はありますが、3時間も間があるのです。さすがに四国は、にぎやかな松山市でさえ、時間の流れが違うのです。日ごろばたばたと過ごしている時間の流れを入れ替えさせられた感がありました。歩き遍路ですし、まずはのんびり行きなさい、ということなのでしょう。

40分のバスの旅を終えると、四十六番浄瑠璃寺前に着きます。門前で、砥部に住んでいる木原さんのお姉さんがお出迎えしてくれました。今日はご一緒させてくださいと



四十六番浄瑠璃寺にて

のことで、心強い地元の人が加わり、いよいよ歩き遍路のスタートです。また、木原さんのお姉さんには、みかんとじゃこ天のお接待までいただき、お腹の方も心強くさせていただきました。

■四十七番八坂寺

浄瑠璃寺から四十七番八坂寺までは約1キロ。歩き遍路の準備体操といったところでしょうか。

その昔、河野衛門三郎という長者の屋敷に弘法大師が托鉢に訪れたそうです。しかし、衛門三郎は喜捨するどころか、大師の持っていた鉄鉢を投げ捨ててしまいました。その鉄鉢

は八つに割れて、翌日から衛門三郎の八人の子供たちが次々と死んでいったそうです。衛門三郎は自分の罪を悔いて、大師の後を追ったのが遍路の始まりといわれ、衛門三郎は遍路の元祖といわれるようになりました。八坂寺は衛門三郎が遍路をはじめたお寺といわれています。

途中で立ち寄った文殊院は、八坂寺の末寺で、衛門三郎の菩提寺になっていました。

衛門三郎菩提寺、文殊院にて



四十七番
八坂寺





四十八番西林寺山門

■四十八番西林寺

八坂寺から四十八番西林寺までは一般道を歩きます。

まだ昼食をとっていませんでしたのでそろそろと思いましたが、うどん屋さんに着いたのは、2時になってしまいました。「瓢月」といううどん屋さんは、2時過ぎだというのに次から次にお客さんがやってくる名店と見えて、とてもおいしいうどんでした。

「瓢月」を出て、一般道と並行する遍路道に入ると、水路



四十八番西林寺にて

にきれいな水が滔々と流れています。木原さんのお姉さん曰く、「この辺りは名水で有名なんですよ」とのこと。うどんも美味いはずです。そして、西林寺の山号が「清滝山」というのもうなづけました。

■四十九番浄土寺

西林寺からは歩道のない一般道を歩かなければなりません。途中、国道11号線を横切り、久米小学校を過ぎると四十九番浄土寺の仁王門が真正面に見えてきました。伊予鉄の線路を渡ると浄土寺です。

仁王門をくぐって石段を登ると古めかしい本堂がどっしりと構えています。1482年、室町時代に再建された国の重要文化財だそうです。簡素なたたずまいはどことなく禅宗寺院をも連想させてくれ、落ち着きます。

平安時代中ごろには、念仏踊りを全国に広めた空也上人が滞在したこともあり、高さ1.33mの空也上人像も国の重要文化財になっているそうです。



四十九番浄土寺仁王門



四十九番浄土寺仁王門にて

■五十番繁多寺

浄土寺から山裾の道を五十番繁多寺に向かいます。途中、山の斜面いっぱいのみかんです。快晴の青空・みかんの葉の緑・色づいたみかんのコントラストが見事でした。

広々した境内に隣接して松山市の水源池があり、その向こう松山市街のはるか先に伊予灘を望むことができました。すでに時刻は午後4時。今日一日歩いたお遍路さんの顔を夕日が照らします。

早朝に千葉を出発し、羽田空港から松山空港、空港からバスで市内に来て、バスを乗り換えて浄瑠璃寺へと、考えると長い一日でした。その上、昼ごはんにはありつけたのは2時すぎになっていました。そんなきつい思いをしながらも、また歩き遍路に出かけてくるのはどうしてなのでしょう。

明日は、移動距離も歩く距離も長く、きつい山越えも待っています。



【左上】繁多寺山門、【上】お参りを終えて、納経帳をいただく、
【左】繁多寺にてお参り、【右】繁多寺の夕景



歩いた距離

第2日目
(11月28日)

JR 予土線「務田駅」

1.83km

四十一番 龍光寺

2.76km

四十二番 仏木寺

14.00km

四十三番 明石寺

1.50km

JR 予讃線「卯之町駅」

計 20.09km

※仏木寺から明石寺までは、正確に計測できず、およその距離。

■四十一番龍光寺

2日目、朝7時20分ホテル発では、ホテルの朝食は無理かと思ったら、6時45分から朝食ができるとのこと、いつもはホテルで朝食の弁当を作っていたのに、今回は暖かい朝食をいただくことができました。

朝食後、伊予鉄の路面電車に揺られて松山駅発8時6分の「いしづち1号」に乗車。特急だから速いのは当たり前で



第七回四国あるき遍路の予定表

期日	曜日	コース予定	食事・宿泊
1	11月27日	土	
		集合 8:30 JAL1463 9:50 10:05 空港リムジン	朝食は道中にて。
		羽田空港 羽田空港発 松山空港着 松山空港発	
		10:26 伊予鉄バス(丹波行) 11:52 12:00 12:30	
		松山市駅着 松山市駅発 窪川駅着 浄瑠璃寺前下車 46番浄瑠璃寺 浄瑠璃寺発	
		12:40 13:10 14:20 14:50	夕食は
		900m 47番八坂寺 八坂寺発 4.7km 48番西林寺 西林寺発	
		15:40 16:10 16:40 17:15	
		3km 49番浄土寺 浄土寺発 2km 50番繁多寺 繁多寺口バス停	松山東急イン
		伊予鉄バス 17:30 17:35 ※時間によっては、途中で切り上げる場合があります。	〒790-0001
		大街道バス停 ホテル着	松山市一番町3-3-1
			Tel 089-941-0109
2	11月28日	日	
		7:20 【路面電車】 7:45 8:06 いしづち1号 9:26	朝食はホテルの弁当を車中にて
		ホテル発 松山駅着 松山駅発 一歩一 10:00 JR予讃線	夕食は道中にて
		9:32 JR予土線 9:44 務田駅着 11:50 一歩一 41番龍光寺	
		宇和島駅発 11:20 仏木寺発 4km 途中昼食	夕食は
		一歩一 3.5km 42番仏木寺 17:30 卯之町駅着 19:50 ホテル着	
		16:50 明石寺発 約2km 19:46 大街道駅	松山東急イン
		19:27 【路面電車】 大街道駅	〒790-0001
		松山駅発	松山市一番町3-3-1
			Tel 089-941-0109
3	11月29日	月	
		7:20 7:29 【路面電車】 7:36 8:00 伊予鉄バス	朝食はホテルの弁当を車中にて
		ホテル発 大街道駅発 松山市駅着 松山市駅発 一歩一 9:45	夕食は道中にて
		9:08 久万着 久万発 一歩一 9.5km 44番大宝寺 大宝寺発	夕食各自
		10:15 岩屋寺発 JRバス 15:37 JR松山駅着 19:20 羽田空港着	
		JAL 1470	
			※久万方面へのバスの便が非常に少ないので、行きも帰りもこのバス時間しかありません。特に帰りは予定のバスに遅れると、飛行機に間に合いませんのでご注意ください。

すが、この電車はカーブでもスピードを落とすことのない振り子電車といわれるものらしく、カーブで体が振られることもなく、乗り心地もいいと感心しているうちに宇和島駅へと到着しました。

宇和島からは予土線の各駅停車に乗り換えます。ところが、どうも来た線路を戻っていると不安に駆られてしまいます。しかし、北宇和島から東に向かう線路に進んで一安心。ここから山道に入り、電車はあえぎあえぎ急坂を登っていきます。急坂を登りきって盆地（三間平野と言うそうです。）にたどり着くと程なく務田（むでん）の駅となりました。

いよいよ2日目の歩きが始まります。駅を降りて迷っていると、農家のトラックの中からこっちこっちと指差してくれます。刈入れを終えた田んぼの中の一歩道を小さな集落目指して進むと、四十一番龍光寺に着きます。

参道の入り口から上を眺めると、突き当たりには真っ赤な鳥居が建っています。札所に

鳥居の組み合わせを不思議に思っただけで登っていくと石段の上には、狛犬ならぬ一対の狐がお出迎え。まさに神社のたまたま。鳥居の奥の社殿はもとの本堂だけあって、小貫さんは、その健脚のあまり社殿まで登って皆の到着を待っていたほどです。明治の神仏分離令により社殿の一段下に現在の本堂を建てたのだそうで、小貫さんもあわてて降りてきました。



仏木寺への遍路道



四十二番仏木寺にて



仏木寺への遍路道にて

■四十二番仏木寺

お参りを済ませ、四十二番仏木寺に向かいます。

石段の途中の歩き遍路の道しるべを見逃さず右に行くと、駐車場に出ます。後を追いかけていくと、先発隊が駐車場でたむろしているではありませんか。「道しるべが見つからない」と、行く手をさえぎられたアリの行列のようです。すると、きく江さんが墓地に上ってい

く入り口に道しるべを見つけられました。止まっている車の陰になっていた小さな道しるべを見つけるなんて、歩き遍路の感覚が鋭くなってきた証拠です。

一山越えて一般道を仏木寺目指して行きます。この県道沿いは、チューリップ・コスモス街道というのだそうですが、季節はずれで花を見ることはできませんでしたが、来春のチューリップの準備に球

根を植えているおばさんがもくもくと仕事をしていました。

山門をくぐると石段の上に見事な紅葉。それと対称に茅葺きの鐘楼が建っていました。

お参りを済ませ、小休止のあとは、本日の歩き遍路の目玉「歯長峠」越えが待っています。門前の店で昼食用のおにぎりでもと思いましたが、お菓子と飲物ぐらいしか売っておらず、仕方なく空腹しのぎになりそうな「唐饅頭」（とうまんじゅう）を買い求めました。おかげでこの日の昼食代は、15人分で800円也。

タクシーで先回りの上條さんと店の前で別れ、健脚組は登り4キロ、下り4キロの歯長峠越えに出発です。

県道から左に折れ、道路工事の脇を通り抜けると、道はいきなり山道となります。ひとしきり登って少し平らになったと思ったらいきなり一般道に出ました。しばらく一般道を進むと、右側に歩き遍路の小さな道しるべを発見。それを頼りに再び山中に入ると、「ここから200メートル急

坂」という案内板があり、鎖場となっていました。11月末だと言うのに汗だくで息をきらして登りきると程なく「歯長峠」。ブロックが積まれた中に石仏が何体も祀っています。ここは、仏木寺奥の院だそうで、送迎庵見送大師。茶店はありませんが、この峠で昼ごはんということにしました。といっても、昼食は仏木寺門前で買った「唐饅頭」、それに各自が持っていたみかんやチョコレート・クッキー・せんべいなど。

しかし、ようやく峠にたど

り着いた満足感と草むらに座り込んでの昼食。遠くに目をやると、左眼下に仏木寺のある集落が見え、前方には宇和の海が光って見えている景色をおかずに、最高の昼食となりました。

遍路道はここから下りにな





り、県道29号線に交わります。肱川を渡る手前に東屋があり、ここで小休止。残すは四十三番明石寺までの平坦な道6キロです。ただし、石井監督は、途中でめがねを忘れてきて戻ったので、プラス1キロ強です。

山越えをした皆は疲れるところか、平地になったら急に歩くのが速くなっていました。私の経験から言うと、時速約5.5kmぐらいはあったと思います。

明石寺に近づくと高速道路

が古い道を分断し、道しるべもあてにならなくなっています。地元の人がこっちだと手招きしてくれるのを頼りに行くと、明石寺の参道正面への道に出ることができました。

■四十三番明石寺

明石寺へは坂道を登っていきます。その両側のもみじが紅葉の盛りできれいです。

石段を登ると、タクシーで先回りしていた上條さんが、「ずいぶん早いじゃないの。」と出迎えてくれました。

うっそうと茂った木々を背景に本堂がどっしりと構えたお寺です。大師堂をお参りして、客殿の前を見ると落ち葉をはいているお遍路さんたちがいました。静けさの中に、砂利の上を竹箒が落ち葉を掃く音は疲れた体にとっても心地よいものでした。

かつて、明石寺の宿坊では、泊まったお遍路さんに雑巾がけや庭掃除・草取りなどをさせていたそうです。落ち葉を掃いているお遍路さんを見て、今年本山で行った「奉仕

明石寺本堂前にて



団参」を思い出しました。

そろそろ今日の遍路も終わりに近づきました。山門の前に、山に向かって遍路道の矢印があります。歯長峠を越えてきた疲れからか、そちらに行くのを尻込みする声もありましたが、最後のひと踏ん張りとい意を決して再び山中に入り込んでいきました。すでに、宇和町のすぐそばまで来ていましたので、あっという間の山越えで街中に出ることができました。「案ずるより産むが易し」です。

宇和町は、世界町並み博の会場になっただけあって、古い町並みが残っています。

健脚の一行は、予定より1時間早い、午後5時23分の電車で松山に戻ることができました。



宇和町の古い町並み

歩いた距離

第3日目
(11月29日)

バス停「直瀬」

1.30km

四十五番 岩屋寺

6.50km

狩場の集落

(タクシー)

四十四番 大宝寺

1.33km

JR バス停「久万中前」

計 9.13km

3日目は伊予鉄「松山市駅」前からバスにて「久万高原」を目指します。例のごとく、8時のバスを逃すと、12時までバスはありません。砥部までは市街地を走りましたが、後はひたすら山を登っていきます。約1時間余り、道路わきの温度情報が3℃を表示するころ「久万」に着きました。まだ朝霧が残っていて、石川先生はシャッターチャンスがたくさんあったのではないかと思います。ここでバスを乗り換えてさらに奥まで行かなければなりません。

岩屋寺前までバスが行くものだと思っていたのに、「岩屋



寺へはここで降りて歩いてください。」とバスの運転手さん。一同あわてて下車すると、松山では感じなかった冷気が漂っています。岩屋寺入り口まで行く間に、手がかじかんでしまいました。

■四十五番岩屋寺

岩屋寺への参道は県道から一気に登りとなります。これは、歩き遍路だけでなくバスやタクシー利用の人も一緒です。お年寄りにはかなりきつい道です。上を見ると岩屋の名の通り、大きな岩山がそそり立ち、覆いかぶさってくるように感じられます。

坂道を登りきると大きな大師堂の前に出ます。右隣、一段下がったところ、岩山にいだかれるように本堂があります。



ここのお参りを済ますと、岩屋寺の裏山越えの「八丁坂」といわれる遍路道です。ところが、山越えの遍路道の入り口に山門が建っています。確か私たちは下から門をくぐって境内に入ったはずなのに、ここにも山門があります。順打ちの場合は、その山を下ってきて山門にたどり着くのです。ですから、こちらが本当の境内への入り口なのです。順打ち・逆打ちのいずれにせよ、歩き遍路しかくぐらない古めかしい山門を抜けて、石ころだらけの遍路道へと足を踏み出しました。

急勾配の登りが一段落すると、遍路道は尾根の北側の湿気を帯びた道と南側の小春日和の道とが交互に現れたり、尾根の道になったりしながら、最後は一気に下りとなり





もう少しで県道に出ます。

ます。その下りの遍路道を終えて、逆打ちでよかったと誰もが胸をなでおろしたことでしょう。順打ちだったらあの坂を一気に登らなければいけなかったのですから・・・。

ここから県道までは比較的平坦な道です。犬のほえる声が聞こえたりして人里の感があります。陽だまりの遍路道には、枯れ草の中に小さなリンドウが鮮やかな色を見せていました。県道に出ると、すでにお昼過ぎ。どこか東屋でも思った昼食でしたが、天気もいいことだし、道端でおにぎりをほおばることにしました。昨日は「唐饅頭」で失敗

したので、今日は松山を出発する前におにぎりを準備して、大正解でした。

おにぎりをほおばり始めたら、後続の石井監督・秋元さん・小貫さんが到着し、全員そろって遠足のお弁当の時間といった感じです。

時計を見ると、すでに予定の時刻は大幅に過ぎており、このまま歩いて四十四番に行ったのでは数少ないバスの便に乗り遅れてしまうので、仕方なくタクシーでの移動に切り替えることにしました。昨日の健脚振りからすると6.5 kmぐらいの山越えは大丈夫かと思いましたが、殊の

ほか山が険しかったのでしょう。旅程作りに無理があったようで、非常に反省しております。この日の行程は無理せずに、一泊コースにすればよかった

と悔いが残ります。次回以降にこの反省を生かしたいと思っていますので、お許し下さい。

しかし、ここまで全員よく歩いたと思います。今回の一番最初の札所、浄瑠璃寺の境内に「仏足石」がありました。文字通り、お釈迦様の足跡を石に刻んだものです。

お釈迦様はお悟りを開かれた後、40年にわたってインド各地を行脚され、その教えを広められました。今から2500年以上も前のことです。当然、歩いての旅だったことでしょう。わざわざ足を運んでくださって、教えを説いてくださるお釈迦様に対し、教えはもちろん大切ですが、それと同時に歩いてきてくださったそのおみ足でさえ尊いものだったに違いありません。土ぼこりで真っ黒になったり、石ころで傷だらけになったり、茨で切り傷を作ったりしながらも、歩いてきてくださるその「足」に感謝する気持ちの表れとして、「仏足石」は生まれたに違いありません。歩き遍路



「八丁坂」を下りきって道端で昼食。



大宝寺本堂への石段



大宝寺にて今回最後のお参り

をした皆さんの足も、お釈迦様の足と同じように尊いと思います。鎖場を登ったり、荒れた遍路道を下ったり、思い体を支えてくれたりと……。感謝しなければいけません。

■四十四番大宝寺

お昼を食べたところの民家のおじさんがタクシーを呼んでくれたので、まもなくタクシーがやってきて、あっという間に四十四番大宝寺に到着しました。運転手さんが、「上まで行くかい？」と言ってくれましたが、境内まで車というのは気がひけましたので、参道の入り口で降ろしてもらい、ここから歩きました。

巨大な山門をくぐり、石段を登ると、そのまた上の石段の上に本堂の屋根が見えてき

ました。八十八ヶ所の札所のちょうど中間点に当たる四十四番です。また、今回最後の札所です。多少木魚のリズムに合わない人もいましたが、大きな声で般若心経を詠み、第七回の歩き遍路も無事終えることができました。

久万中学校前からJRバスに乗り松山に向かう途中、はるか遠くに松山市街が見えました。歩き遍路は、愛媛最初の難所を終え、ここから松山に向かって下り、1日目のお参りを済ませた浄瑠璃寺に向かうのです。そう思ったら、わずか2日前に歩いた浄瑠璃寺から繁多寺までの遍路道が懐かしく感じられました。



第七回四国あるき遍路の旅 記録集

写真：福田 きく江
石川 信子

宮田 宗格

文：宮田 宗格

編集：宮田 宗格

発行：臨済宗妙心寺派
圓福寺

千葉市稲毛区穴川町375

<http://www.bnet.co.jp/enpukuji/>



大宝寺のお参りを終えて

